

The Japan Dickens Fellowship

NEWSLETTER Spring 2007

Department of English Literature
Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University
17-24 Kawauchi, Aoba-ku, Sendai 980-8576
Tel & Fax +81(0)22-795-5961(Department Office)
E-mail : hara_ei@sal.tohoku.ac.jp
http://wwwsoc.nii.ac.jp/dickens/



2007年6月26日

『ディケンズ鑑賞大事典』刊行

日本支部をあげての大事業として取り組んでおりました『ディケンズ鑑賞大事典』（南雲堂）が、ついに刊行の運びとなりました。支部会員の皆様は特別価格にて購入することができます。図書館等にもぜひご推薦ください。

2007年春季大会報告

2007年度の春季大会は6月9日（土）、松本靖彦氏のお世話で東京理科大学野田キャンパスにて開催されました。50名を超える聴衆が集まり、充実した内容の研究発表と講演に熱心に耳を傾けました。以下、簡単に内容をご報告いたします。

開会を前に、昨年急逝した日本支部理事故村山敏勝氏へ黙祷が捧げられました。

支部長挨拶では、日本支部としての大事業である『ディケンズ鑑賞大事典』がついに刊行されたことが報告されました。

第一部 司会 金山 亮太（新潟大学准教授）

研究発表 1

大島カレン（島根大学准教授） “The Muddled State of Education and Relationships in *Hard Times*”

大島カレン氏の英語による発表では、『ハード・タイムズ』の中で「教育」システムが混乱している状況がGradgrindの家庭を中心に細かに分析されました。功利主義に基づいた教育システムの信奉者であるGradgrindが自分の子供たちの教育に失敗していく様は、産業化社会の根底にある人間性軽視から発することを認識させてくれた発表でした。

研究発表 2

加藤 匠（明治大学非常勤講師） 「完全なるイギリスの主婦をめざして——*Our Mutual Friend*から考えるディケンズの女性表象——」

加藤匠氏の発表は、『互いの友』において、ベラ・ウィルファーが自己中心的な女性から「家庭の天使」へ変貌することの背景に中流階級女性をめぐる社会的イデオロギーがあることを洞察し、その有機的な作用を論じたものでした。当時のいわゆるconduct bookが『完全なるイギリスの主婦』というイメージを作り上げている状況を提示し、それが結婚後のベラの行動規範となっていることを明らかにしました。

第二部 司会 松村豊子（江戸川大学教授）

講演 1

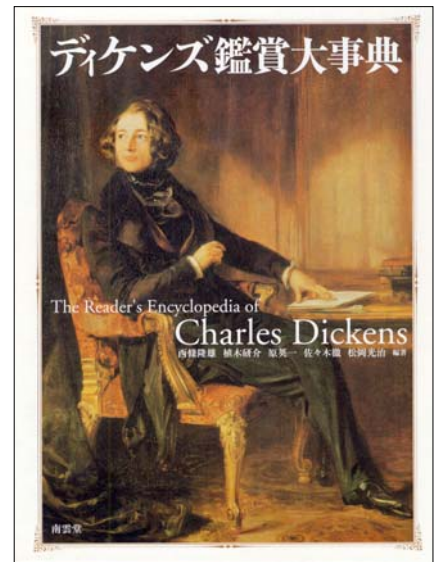
松本靖彦（東京理科大学准教授） 「ディケンズの速記と人物造形」

松本氏は、ディケンズの人物造形における想像力の働きには、次のような速記的といつてよい特質が認められることを指摘しました。①全体像に替えて、局所的、断片的な外的特徴で人物を描写すること。②断片的な外的特徴が、全体像に膨れ上がっていくこと。こうした速記術の特徴はディケンズの想像力の隠喩として捉えることができます。断片の全体像への成長というパターンはヴィクトリア朝の文化に通底している傾向でもあると論じられました。

講演 2

武井暁子（山口大学准教授） 「慈善活動家としてのディケンズ：Urania Cottageとの関わりを中心に」

ディケンズが親しい友人であり慈善事業家であったパーデット・クーツと共同で、売春婦の更生施設Urania Cottageを運営したことは、伝記的事実としてはよく知られています。しかしその運営の実態についての詳細なリサーチはま



だ不足している感がありました。武井氏の発表はUrania Cottageがいかにして運営維持されていたのか、そこに収容された売春婦たちの実態はどうだったのか、彼女たちの更生・再出発という目的がどの程度達成されたのかなどを精密なりサーチによって明らかにしてくれました。

懇親会

大会終了後、キャンパス内のカナル会館に場所を移して懇親会が開かれました。三十名ほどが参加しました。その後、柏駅前に移動しての二次会でも十六名ほどが参加、フェロウシップ精神の横溢する飲食、歓談の時間はあっという間に過ぎていきました。

野田キャンパスは、名前のせいか、何となく不便な印象がありましたが、実際に行ってみると、交通はとても便利でした。秋葉原からつくばエクスプレスで26分ほど、東部野田線に乗り換えて7分。会員の出足が心配されましたが、いつものように五十名以上が集いました。あらゆる面で行き届いたお世話をいただいた松本靖彦さん、手際よく精力的に働いてくれた学生アルバイトの皆さんに心から感謝申し上げます。

諸 報 告

- (1) 『年報』第30号への論文投稿は6月10日で締め切りました。3篇の投稿があり、現在査読担当理事により審査中です。
 - (2) 記事・ニュースの締切は8月10日とします（支部長宛にお送りください）。
 - (3) 『年報』に掲載いたしますので皆様の業績報告を随時メール・郵便等により支部長までお寄せください。
- また、日本におけるディケンズ研究書誌を作成するため、会員（および会員以外の方の）2006年度の著書・論文等の報告にもご協力をお願いいたします。できれば以下のウェブフォームでご報告ください。

<http://form1.fc2.com/form/?id=31664>

または松岡光治理事宛 (e-mail: mitsu@lang.nagoya-u.ac.jp)に御報告いただければ幸いです。

2007 年度秋季総会予告および研究発表募集

2007 年度秋季総会は、佐々木徹さんのお世話により、10月6日(土)に京都大学で開催されます。研究発表を募集しますので、ご希望の方は、下記要領でふるってご応募ください。

- 研究発表の内容要旨を400字程度にまとめたものを、8月10日までに、下記宛電子メールでお送りください。

hara_ei@sal.tohoku.ac.jp

※ 電子メールが利用できない方は事務局宛郵送でかまいません。

- 応募者多数の場合には、やむを得ずお断りする場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

『ディケンズ鑑賞大事典』出版祝賀会予告

秋季総会では、懇親会にかえて、『ディケンズ鑑賞大事典』の出版祝賀会を開催します。

日時 2007 年度秋季総会は、10月6日(土)

場所 SECOND HOUSE Will 同志社大学今出川キャンパス寒梅館

※ 詳細は秋季総会のプログラムでお知らせいたします。

ディケンズ・フェロウシップ日本支部事務局
〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1
東北大学大学院文学研究科 英文学研究室内
電子メール： hara_ei@sal.tohoku.ac.jp
電話・ファクス： 022-795-5961（英文学研究室助手）
022-795-5959（原支部長直通）